

製品のライフサイクルにおける環境負荷の削減



▲ ラタは、電子部品などを製造するメーカーであると同時に、電子機器メーカーに納品するサプライヤーでもあります。この事業特性を考えたとき、製品自体の環境負荷を削減することが大きな使命であると考えます。ここでは、そうした取り組みの一端をご紹介します。

環境に配慮した製品の開発設計

製品の設計から廃棄・リサイクルにいたる一連のプロセスをライフサイクルと呼びます。ムラタでは、ライフサイクルの各段階で環境に配慮すべき事項を洗い出し、自社だけでなく、サプライヤーとも連携を図りながら製品中の環境負荷をできる限り減らす取り組みを行っています。

まず、調達の際には独自の審査制度やデータベースによって有害な化学物質が使用されない管理を行い、環境に配慮した資材を購入します。開発・設計の時点ではLCA(ライフサイクルアセスメント)分析を行い、製造過程における負荷を定量的に把握した上で、製造工程における環境負荷を低減する取り組みを行っています。さらに製造工程では、省エネ診断によるエネルギー効率の向上、3R(Reduce、Reuse、Recycle)の思想に基づく省資源化などに取り組んでいます。

当社製品の小型で高機能であるという特長が、納品先である電子機器メーカーにおける省資源化、省電力化に寄与しています。しかし、部品サイズが小さいことから、回収やリユースが困難であるという課題もあります。そのためムラタでは、製品に含まれる環境負荷化学物質の代替・削減を最重要課題のひとつと位置付け取り組んでいます。

また、一部の材料として使用しているPPS樹脂に関しては、その成形時に発生する余分な樹脂材料を、樹脂ペレット業者に戻して再利用するなど、資源の循環化に取り組んでいます。

納品後のデータ把握を目指して

今後の課題は、納品先の電子機器メーカーにおいて、当社の製品が、納品先の環境負荷低減にどの程度貢献しているかを定量的に把握することです。

電子機器メーカーでは、当社製品の小型化・高機能化による省資源や省電力などを見込んでいますが、その裏付けとなるデータは把握できておらず、電子機器メーカーと協力して進めていく必要があります。また、最終消費者の使用時においては、当社製品の中に受動部品と呼ばれる、他の装置との連動によって初めて機能するものもあるため、部品単体でデータを把握することは非常に困難です。

ただ、当社ではこうした困難な課題をひとつずつ解決していくことが、持続可能な発展における企業の社会的責任ととらえ、今後段階的に課題解決に向けた取り組みを進めていきます。

ライフサイクルにおける製品の環境配慮と及ぼす影響

